

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	令和8年度第1回吉川市男女共同参画審議会
開 催 日 時	令和8年5月28日(木) 午後2時00分から 午後4時00分まで
開 催 場 所	吉川市役所 304会議室
出席委員(者)氏名	猪野満里子委員、祝田大地委員、鈴木優子委員、斎藤理志委員、 西山亜弥委員、菅野祐太委員、加藤真理子委員、新井真哉委員、 浅野富美枝委員
欠席委員(者)氏名	
担当課職員職氏名	市民生活部副部長兼市民参加推進課長 安室 晴紀 人権・文化交流担当主査 阿部 恵 人権・文化交流担当主任専門員 互 英久
会議次第と会議の公開又は非公開の別	1 開 会 2 議 事 (1) 令和7年度吉川市男女共同参画市民意識調査の結果について (2) 第4次吉川市男女共同参画基本計画 後期基本計画策定の方針について 3 その他 4 閉 会 ※すべて公開
非 公 開 の 理 由 (会議を非公開にした場合)	
傍 聴 者 の 数	0人
会 議 資 料 の 名 称	・ 次第 ・ 委員名簿 ・ 資料1 令和7年度吉川市男女共同参画市民意識調査報告<概要> ・ 資料2 令和7年度吉川市男女共同参画市民意識調査報告書 ・ 資料3 令和7年度吉川市男女共同参画職員意識調査報告書<概要> ・ 資料4 第4次吉川市男女共同参画基本計画 後期基本計画策定の基本方針 ・ 資料5 第4次吉川市男女共同参画基本計画 令和7年度進捗状況報告<概要>
会議録の作成方法	録音機器を使用した要点記録
会議録確認指定者	西山亜弥 委員、菅野祐太 委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
会 長	出席委員は9名であり、参加人数が定足数に達しており会議は成立する。会議録署名委員は、西山亜弥委員と菅野祐太委員を指名する。
事務局	(1)令和7年度吉川市男女共同参画市民意識調査の結果について 「資料1 令和7年度吉川市男女共同参画市民意識調査報告<概要>」に基づき説明
会 長	吉川市の現状を理解していくことが大事。意見交換したい。 資料1は概要であり、調査結果全体の資料2と市職員の意識調査結果の資料3もあわせて議論したい。
委 員	回収状況では、性別をその他と回答した方が1人いたことは認識しておく必要がある。インターネットを使った電子での回答率が増加したことによる集計への影響も念頭に入れた上で議論したい。資料1のP1調査概要について意見はあるか。
会 長	なし 資料1のP2からP4まで意見はあるか。 日本における女性参画の課題への回答では、仕事と家事・育児・介護等の両立を支援する制度へのニーズが高いことが分かる。資料2のP24にある経年変化を見ると、性別役割分担の考え方について多少は意識が高まってきているようだ。仕事と家庭の両立は個々の家庭内だけで解決するのは難しいと認識されるようになり、支援制度を求めるニーズが高まってきているのではないか。 男女の固定的役割分担意識が強いということも、今なお課題ではないかと考えるがいかがか。
委 員	周知を進めることで固定的役割分担意識を改善していくことができると思う。アンケートに回答した方に集計結果概要を公表することで、回答しなかった方にも伝わる。これを繰り返していくことで意識が変わっていくと考える。また、家事の一覧表を作成し、役割分担のモデルケースを示したら、効果的であると感じる。モデルがあれば、これを機会に夫婦で話し合えるのではないか。
委 員	大人の意識を変えるのは難しい。子どもたちへのアプローチを増やすことで、仕事と家事の分担ができていけると考える。
委 員	資料1のP2にあるように、男女の平等意識について、「学校教育」の分野において平等感を感じる方が最も多かった。さらに高めて100%にしたいと思う。新入生が女性校長に驚くような場面もある一方、ランドセ

委 員	ルの色は多様な色が選ばれている。生活科などの授業では家庭での役割を実践できる力を育む内容になっており、活用されるイラストでは固定的な役割分担を意識付けすることのないような工夫がされている。教職員の意識を高めて、子どもたちへの対応を心がけていきたい。 資料2のP11以降にある、男女平等意識の経年変化は興味深い。家庭での意識は変わってきたが、社会通年や風潮、法律や制度の中では「男性の方が優遇されている」を回答する方の割合があまり減っていないと感じている。
委 員	これまで息子には平等の役割分担を意識した子育てをしてきた。その息子が自身の子育てのために昇進をあきらめると話していたことに違和感を感じ、自分にも固定的な役割分担意識があると思った。 P24の性別役割分担(男性は仕事、女は家庭という考え方)の性別年代別では、「そう思う」に回答した割合が10歳代・20歳代が一番多かったことは驚いた。
事務局	10歳代・20歳代の男性回答者の母数が少なかったことの影響もあると思われる。
会 長	意識調査の結果について、市民を交えて分析・議論したら良いと思う。寸劇にして披露すると、受け入れられやすいと考える。
事務局	市ホームページで集計結果を公開している。また、広報よしかわ3月号の紙面でも一部を紹介した。
会 長	P31の自由記載にある「子どもが小さい時に夫婦共にフルタイムで働くのが難しい」のような、特徴的な回答を紹介するのも良い。
委 員	10歳代・20歳代の回答が少ないので、さらに回答者を増やす方がよい。子どもを持つと考え方は変わる。子育て中であるか否かなどの背景が分かる調査となるとよい。自分のケースに合わせて考えることができると感じた。
会 長	市民まつりなどで話し合いの場となるブースがあると良い。関心が低い方も参加できるメリットがある。皆に自分ごととして考えてもらえるようにすると良い。
副会長	周知が一方通行になっているという現状があることは否めない。双方向で周知をしていくことが効果的と感じた。
会 長	資料2のP17問3の用語の理解度のうち「市男女共同参画推進条例」「市配偶者暴力相談支援センター」とP22問4「おあしすが男女共同参画推進の拠点施設である」を知っているとの回答が少なかった。用語や拠点施設であることを知ってもらう取り組みがさらに必要であると感じた。

委 員	用語よりも寸劇で啓発すると理解しやすい。男女共同参画は身近なことであるということを、目を引くような、分かりやすいタイトルで引き込めると良い。
会 長	「セクシャルハラスメント」、「DV」などの具体的な言葉の周知度は高くなっているが、制度や支援についての認知度は低い。関心の高いタイトルで引き付けて、そのための制度はこうなっていると周知をしていく取り組みは効果的と思う。
委 員	いかに市が取り組んでいるか、分かりやすく伝えることが必要である。
委 員	社会通念上、「仕方がない」と思われがちなことでも、既に法律などで守られていることも多い。「意見や気持ちを市に伝えても良いのだ」と、市民に分かりやすく伝えることが大切であると感じる。
委 員	同感である。「ワークライフバランス」などの用語認知度が高い一方で、漢字の用語の認知度が低いのは、堅苦しい用語は理解されにくいからだと思う。
会 長	用語を知らなければ活用ができない。知ってもらうための工夫が必要である。
委 員	資料１のP５のDV相談状況についてはいかが。
委 員	男性で「相談しようと思わなかった」と回答した方の中には、自分の状況がDVであるとは思っていなかった方もいるのではないかな。
委 員	アンケートの選択肢を読んで、これはDVだったのかと気づいたかもしれない。
事務局	DVを受けたと回答した方がDV相談の有無を回答している。この意識調査が、気づきの機会となることもあったと思う。
委 員	この調査を機として、自分自身もDVが身体的暴力だけではないことを知った。同様に、気づいた方も多いのではないかな。意識調査には、このような周知においても意義があると思った。
会 長	用語の内容を正確に理解しているかが課題。質問の意図を理解しやすいように改善していくことが、今後の施策を考える上で大切である。 また、「相談したかったが相談できなかった」という回答者を、減らしていくための取り組みを推進していく必要がある。被害者同士や加害者同志で話し合うピアカウンセリングという方法もある。このような取り組みも必要となるのではないかな。
委 員	行政に相談することに抵抗がある方もいる。
会 長	行政に相談するだけでなく、多様な種類の話し合う場があるとよい。 次に、資料１のP６のパートナーシップ宣誓制度、P７からP９の困難な問題を抱える女性への支援、施策への要望について意見があるか。

委 員	相手との関係性によってDVと認識されるか否かは変わってくる。皆が共通の認識を持ち、今後どうしていけばよいかを考える必要がある。当事者間同士で、相手との距離感を捉え、適切な関係性を築いていくことが重要であると感じている。全体的に、男女の平等意識はだいぶ根付いてきていると実感する一方で、難しい課題であると感じた。
会 長	ストレス社会において、良好な人間関係をつくることは難しい。ウェルビーイングの実現や心の健康について、ストレスなく生きていける社会づくりから考えていく必要がある。
委 員	他市の女性市長が産前産後休暇を取得するとのニュースが興味深かった。育児休暇を取得する男性副市長は評価される一方で、女性市長が産休を取得する場合は、批判的な意見が多く寄せられていた。社会は変わりつつあると思っているが、根柢の部分ではこのようなことも表出してくる。他人事ではなく、いつでも起こりうることと感じた。
会 長	責任ある立場の方が、家庭生活と仕事を両立できるようなシステムを作っていくことが必要である。
委 員	職場において、男性職員が育児休暇の申出を受け入れることに理解はしているが、私自身も本音の部分では抵抗感もある。
会 長	ゆとりがある職場環境が求められる。
委 員	人手不足など社会的な問題もある。社会的な構造を変えていかないと受け入れ難い部分もある。
委 員	責任あるポストに女性が増えるとよい。
事務局	(2)第4次吉川市男女共同参画基本計画後期基本計画策定の基本方針について 「資料4 第4次吉川市男女共同参画基本計画後期基本計画策定の基本方針」および「資料5 令和7年度進捗状況報告<概要>」に基づき説明。
会 長	資料4について、質問や意見はあるか。 後期基本計画は、資料4のP5の通りの柱立てとすることで審議を進めていきたいということ。「(5)国および県との連携」の項目には、国の新たな体制や埼玉県との取り組みについて、追記されている。 男性・女性全体への施策が求められている。市の対策と併せて、県等の事業へ相談者をつなげていくことも重要である。
委 員	「ウェルビーイング」という用語を押し出していくと良い。市民意識調査の結果として、男性や独身者、子どものいない方への支援も求められていることが分かった。「男女共同参画」という表現ではなく、「ウェル

委 員	ビーイング」という発想が良いのではないか。DVについて相談しやすくする工夫や、行政にDV相談をすると、どのような支援があるのかについて、効果的に周知することが求められる。 昨年度実施した「女性と文化芸術」の男女共同参画イベントもとても良い内容であった。より周知し、より多くの方が参加するとさらに良い。
会 長	以上で本日の議題を終了とする。
以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。 令和8年8月10日 西山 亜弥（自署） 署名委員 菅野 祐太（自署）	